

もつと知りたい
ふるさと

47

杏の里森

岡地天満宮の縁起記

杏の里千曲市森岡地地籍の高台には、神社庁登録の「岡地天満宮」が鎮座されています。本尊は学問の神様、菅原道真公（845〜903）が祀られています。

岡地天満宮には菅原公像（木質）一躯が安置されているほか、紺紙金泥の法華経妙莊蔵王品一基が供えられ、菅丞相書『法華経ならびに親作木像記』によると、これらは菅原公の自作・真筆だと伝えられています。

古文書によると、これらの

貴重な文化財が岡地天満宮に安置されるに至った経緯は、江戸城築城で名声を馳せた太田道灌入道が足利学校（中世の高等教育機関で室町時代初期に栄え、その後は色々の屈曲を経ながら明治5年まで存立した学校です）で学問を修めた時、請い受けたとされ、事由は江戸の「湯島天神」に安置しようとしていました。ところが、当時の江戸は水害・火災等不慮の災害が多く、これが叶わない状況にありました。そうした中で、当本尊および

び付属書簡は徳川家康、同家光將軍の手を経て、官医・土岐長庵から信州松代藩の菩提寺長国寺に遺贈されることとなり、その経過を記した書面は太田道灌が起筆した桐箱に納められています。

さらに、寛政2年（1790）長国寺第十七世住職千丈實庵師が、当時の岡地村の観音庵の敷地に、「華嚴寺」を創建開闢し、遷住した際、岡地天満宮に安置され、以降、学問・書道・慈悲の神として岡地地域住民に永く守護されてきました。

した。

ちています。

別当、華嚴寺はその後廃寺になりましたが、天満宮は昭和57年8月大改築を行い、森地区内外の皆様から篤志寄進を仰ぐ中で再建されました。

特に近年は、貴重な文化財「岡地天満宮」を守るために岡地地区に住む若人が「OKG」を設立し、「合格鉛筆貸出し構想」を企画実行した結果、年末年始に行われる越年祭・元旦祭・初天神祭では高校・大学・就職合格祈願の参拝者が、地元はもとより県内外まで増大し、活気に満ちています。

なお天満宮の拝殿内には天部・虚空蔵菩薩が安置されているほか、天満宮周辺には耳聾薬師堂や清水製鉄遺跡があり、隣接の岡地公民館は住民の憩いの場になっています。

興味のある方は機会をみて、「日本一を誇る杏の里と、由緒ある岡地天満宮」を探索してみたいかがでしょうか。

（文責）岡地天満宮総代長 北島武重

【参考文献】

『森ふるさと史跡探訪記』
『乙路の県岡地探訪記』



拜殿の外側



拜殿内の様子



時期になれば多くの合格祈願者が訪れる